

「四季の色彩」

(第十六回)

先日、国際的なバレエ団の舞踏「四季」を観た。踊りとともに奏でられるのは、クラシックの名曲「ビバルディの四季」。

最初に音楽があり、それに合わせて振り付したものだ。

春はホ長調の曲がよく似合う。後方のスクリーンには、青空にぼっかり浮かぶ白い雲。パステルカラーの衣装をまとい、軽やかなステップが続く。

うだるように暑い

夏。音楽の色も真っ

赤だ。第二楽章ではコ

ンピュータ映像も加わ

り、雷鳴が轟き、稲妻が走

る。身のこなしで、心の微妙

な動きが伝わってくる。

実りの秋。茶色や金色のパンタロンをひらひらとたなびかせるバレリーナ。収穫の喜びはどこも同じで、みんなが輪になって踊り

だす。和音も明るく展開し、時にピリツとしたハーモニーのスパイスが心地よい。

雪や氷で閉じこめられる灰色の冬。雪がしんしんと降り続く。優雅で憩いの時間はほんのひとときで夢のよう。ラスト

シーンでは、舞台の中央で倒れる男性を、天使の女性が優しく包み込んで癒していた。

演出を見て思い

出したのは、キトラ古墳の壁画のニユー・ス。古代中国には

方角の守護神「四

神」がいた。東は青

竜、南は朱雀、西は

白虎、北は玄武(亀

と蛇)という神獣だ。

これらが春夏秋冬に対応するとも言われ、色の雰囲気も似ている。

もしかしたら、喜太郎がテーマ曲を作った「シルクロード」を通じて、四季の色彩感が中国からヨーロッパに伝わり、現代にまで至っているのかもしれない。

(徳島大学附属病院内科医師)

健康のススメ

板東 浩